

平成30年度第1回市史編さん審議会 会議録

日 時 平成31年3月29日(金)

13:30～14:10

場 所 市役所本庁舎9階 第2委員会室

出席委員 簗島会長、本波副会長、明村委員、今井委員、坂田委員、佐藤委員、
澤田委員、福原委員、森委員、山本委員（10名）

欠席委員 なし

事務局 市長部局：佐々木副市長

教育委員会：瀬能教育部長、山口教育部次長

市史編集事務局：白川事務局長、藤原主幹、武田主査、佐藤囑託学芸員、
福島調査員、大泉調査員

生涯学習課：田中主査

-
- 1 開 会 (進行) 市史編集事務局長
 - 2 委嘱状の交付 副市長から各委員に委嘱状交付
 - 3 副市長挨拶
 - 4 委員自己紹介
 - 5 会長・副会長の選出
会長に簗島栄紀委員、副会長に本波裕樹委員を選出
 - 6 会長・副会長挨拶
 - 7 諮問
苫小牧市史編さん方針等の策定について諮問
 - 8 説明
 - (1) 市史編さん審議会委員の職務について
 - (2) これまでの苫小牧市史等の発刊状況について
 - (3) 他都市の市史発刊状況について

《質疑の主な内容》

事務局：ただいまの説明について、質問やご意見等ございませんか。

委員：市史編さんにあたってのこれまでの経緯について説明されましたが、現時点で作業を進められていると思います。当時の市史のサイズや内容について触れられたんですが、新たに見つかった史実も含めて、それらを付け加える意味で全面的に編さんするという考え方でいいのでしょうか。例えば、審議会の中で決めてくださいというものなのか、現時点で作業を進められていると思うんですが、考え方の基本等があればお聞きをしておきたい。

事務局：現在進めている作業としましては、市史を編集するにあたって、これまで発刊している市史もございしますが、ここに記述されていない資料等もあります。先ほど申し上げたとおり平成12年以降の記述もございませんので、そこら辺の資料の収集を行ってきたところと、他市の状況を視察し、どうやって編さん作業を進めているのか等の調査研究をしてきたところでございます。そして、今お話しのありました市史の大きさだとか、全面的な見直しをかけるのかといったところも、次の審議会からどのような市史を編さんしていくのかといったところを委員さん皆さんで御議論いただきたいと考えております。ただ、最近の傾向としましては、他市ではこういう市史の作り方、編集の仕方ということでお話をさせていただきました。苫小牧市では、追補編が平成13年に発刊してそれ以降の記述がありませんので、それ以降の記述として作るのか。先史時代から遡って新たなものを作るのかといったところに関しても、次の審議会の中でそういうことも含めて、御議論いただければと考えております。

事務局：他にございませんか。

委員：次の審議会で議論するのは結構なんですけれども、各委員が意見を述べてそれを基に示されるということだと思いますけれども、ある程度、たたき台というか市の方針、こういう市史を編さんしたいというものをお示しにならないのかなと。苫小牧では、苫小牧市史が発刊されて平成13年の追補編までの間に8冊が発刊されています。そういうことを考えると豊かな苫小牧であり、目まぐるしく変化していく苫小牧のことを考えますと、市史はきちんと残すべきだと思います。しかし、どういうふうに残すのかということは、教育委員会の方で基本的な方針はこうやりたいけどどうなのかということをお示しいただきたいと思います。

事務局：市教委としての方針を次の審議会でお示しして、その内容に沿って、委員の

皆さんの議論をお願いした方がいいのではというお話でした。どこまで事務局として出せるかという方針の答え的なところを最初に出していくのか。先ほど言いましたとおり市史の編さんの続きなのか、遡ってすべてを見直して作るのか。後は、市史の大きさの部分も今までのものなのか、他市と似たようなものにするのか。内容的なものも部門史なのか、歴史が流れて見えるような通史なのか。審議会をせっかく設置していただきましたので、審議会の中で決めていただきたいという思いはあります。ただ、項目出しを事務局の方でさせていただいて、審議会の委員の皆様で御審議いただければと考えております。最初に答えを出して御審議いただくと、事務局から押し付けるような形になりますので、そこら辺は審議会の方で御議論いただきたいと考えておりますが、何もない真っ白な状態ではなく、ある程度、項目出しした中で皆さんに御議論いただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

9 その他

次回の会議開催予定についての説明

10 閉会